

日系カナダ人コミュニティと新移住者の関係

大木 崇、アルバータ州セント・アルバート市

2026年1月11日

目次

I.	はじめに	1
II.	新たな日本人移民（新移住者）の人口統計的特徴	2
	1. 日本人移民に対するカナダの移民政策	2
	2. 新移住者	4
	3. 教育	10
	4. 所得	11
	5. 言語	12
	6. カナダ移住の動機	13
	7. エドモントンにおける新移住者の調査	14
	8. 地理的分布	14
III.	新移住者と第二次世界大戦前の日本人移民の子孫との相互作用	23
	1. アイデンティティの比較	23
	2. 相互関係	24
	3. 制度的枠組み	25
IV.	結論	34

I. はじめに

従来の20世紀の日系カナダ人コミュニティの歴史の大半は、第二次世界大戦中および直後の、連邦政府と州政府による人種差別に基づく、様々な不正義に対する苦闘、再興、そして救済を求める闘いについて書かれたものです。しかし1967年、カナダ政府が人種に基づく移民割当を廃止し、能力に基づくポイント制を導入したことで、日系カナダ人社会に決定的な転換が起きました。この政策変更は、日本からの新たな移民の波への扉を開き、「新移住者」と呼ばれる独自のグループを日系カナダ人社会に誕生させました。戦前の一世とその子孫の物語とは異なり、新移住者の物語は、彼らがカナダ社会に統合されて行く過程で、文化的適応とアイデンティティの形成に焦点を当てるものです。

戦前の一世とその子孫（二世、三世、四世）の物語は、依然として日系カナダ人コミュニティのアイデンティティの中核をなしますが、1967年から2022年にかけて46,000人以上の日本人移住者が到着したことで、コミュニティの構成は根本的に再構築されました。今日、これらの新移住者とその子孫は、日系カナダ人人口の半数以上を占めますが、彼らの経験、動機、直面する課題は、既存の日系カナダ人コミュニティのものとはしばしば著しく異なります。

本稿の目的は、これらの新移住者について、包括的な人口統計学的・社会的分析を提供し、広義の日系カナダ人コミュニティ内における彼らの役割を検証することです。具体的には以下の点を目的とします：

1. **新移住者の特徴：** この集団の人口統計的特徴を分析します。これには女性移住者の多さ、高い学歴、そして1900年代初頭の労働力主導の移住者とは対照的な、独自の経済的動機、社会的動機による移住の分析が含まれます。
2. **世代間の相互関係の探求：** これらの新移住者と戦前移住者の子孫との間の複雑な相互作用を調査します。そして、両集団間に存在する文化的・言語的隔たり、また両者が交わる共有空間を考察します。
3. **両集団の統合を推進する組織の評価：** 全カナダ日系人協会（NAJC）から地域の文化センターや語学学校に至るまで、コミュニティ組織がこれらの異なる集団間の隔たりを埋めるためにどう適応しているかを評価します。これにより将来に向けた、より包括的で結束力のある日系カナダ人アイデンティティが醸成していることを分析します。

新移住者の特異な特徴と、戦前の移住者の子孫達の日系人コミュニティとの関係を理解することで、現代の日系カナダ人の経験の多様性をより深く把握できると願っています。

前半は統計分析が多いので、先ず、**III. 新移住者と第二次世界大戦前の日本人移民の子孫との相互作用**から読み始め、その後で**II. 新たな日本人移民（新移住者）の人口統計的特徴**をお読みください。

II. 新たな日本人移民（新移住者）の人口統計的特徴

1. 日本人移民に対するカナダの移民政策

20世紀初頭の日本人移民急増と1907年のバンクーバーにおける反アジア暴動を受け、カナダと日本はレミュエー・林紳士協定を締結しました。これによりカナダへの日本人移民は大幅に制限され、移住パターンが再構築されました。日本は自発的にカナダへの移民数を年間400人に制限することに合意しました。そして、その大半は既にカナダに在住する日本人の家族でした。しかしこの協定

は妻や子供の渡航を認めたため、写真花嫁制度が生まれました。日本からの新移住者が減ったことで、日系カナダ人コミュニティは、より永住的な形態へと移行し、ブリティッシュ・コロンビア州沿岸部で家族やコミュニティを形成し始めました。

第二次世界大戦終結後も、カナダ政府は日系カナダ人に対する差別政策を継続し、日系カナダ人に日本への強制送還か、ロッキー山脈以東への移住かを迫りました。こうした政策の結果、計 3,964 人の日系カナダ人が日本へ強制送還されました。送還された日系カナダ人以外に、戦前に親によって日本へ送られ日本で教育を受けていた日系カナダ人児童が 1,688 人いました。これら児童は戦時中、カナダへ帰ることが出来ませんでした。

強制送還や離散政策に加え、カナダ政府は新規の日本人移民を認めない政策を実施しました。この政策は原則として 1967 年まで継続しました。同年、カナダ政府は人種に基づく移民政策を廃止し、新移住者選抜のためのポイント制を導入しました。1945 年から 1967 年にかけて、カナダ政府は日系カナダ人市民連盟による一連の請願を受けて、やむを得ず日本にいる日系カナダ人の帰国を許可しました。

1945 年から 1951 年にかけて、カナダは戦争で荒廃したヨーロッパから 15 万 7 千人以上の難民を受け入れました。これにはホロコースト生存者、ソ連支配から逃れた東欧諸国出身者、そしてドイツ人やイタリア人を含む戦争で故郷を追われた人々が含まれていました。これらの難民はカナダにおける民族コミュニティを築き、さらなる移民の基盤となりました。1951 年から 1976 年までの日本人移民の総数は 2,397 人でした。そのほとんどは第二次世界大戦中および戦後に日本へ強制送還された、あるいは日本に取り残された日系カナダ人でした。戦後、カナダ在住の日本人移民は、日本にいる家族や親戚、友人に移民を勧めることができず、日系人コミュニティを拡張することができませんでした。したがって日系カナダ人は、連邦政府の政策によってカナダ各地に分散された、小規模な日系カナダ人の拠点を基に、コミュニティ再建を迫られました。

カナダ政府の日系カナダ人に対する差別政策は 1949 年 3 月 31 日によりややく廃止されました。しかし政府は日本からの新移住者に対し厳格な制限を維持し、1967 年に移民法が改正されポイント制が導入されるまで事実上禁止を続けました。この改正により人種・宗教・国籍に基づく優遇措置は廃止されました。1967 年以降に日本からカナダへ移住した人々は、日系カナダ人コミュニティにおいて「新移住者」と呼ばれました。

表 1
日本国籍のカナダへの移民数

年	数	年	数	年	数	年	数
1945	0	1965	188	1985	205	2005	1,065
1946	1	1966	500	1986	273	2006	1,210
1947	0	1967	858	1987	446	2007	1,250
1948	5	1968	693	1988	346	2008	1,285
1949	11	1969	766	1989	541	2009	1,195
1950	11	1970	797	1990	365	2010	1,165
1951	3	1971	883	1991	492	2011	1,265
1952	6	1972	718	1992	586	2012	1,210
1953	46	1973	1,105	1993	910	2013	985
1954	71	1974	859	1994	956	2014	1,125
1955	97	1975	635	1995	835	2015	995
1956	121	1976	498	1996	1056	2016	1,035
1957	180	1977	412	1997	971	2017	1,085
1958	183	1978	359	1998	1,021	2018	1,035
1959	190	1979	666	1999	1,356	2019	1,115
1960	159	1980	737	2000	1,010	2020	615
1961	114	1981	770	2001	1,090	2021	1,405
1962	134	1982	630	2002	805	2022	885
1963	171	1983	330	2003	815	2023	
1964	140	1984	250	2004	975	2024	

資料：カナダ政府移民、難民、市民省

表 2
カナダへの日本人移民

期間	数
1967-1976	7,812
1977-1986	4,632
1987-1996	6,533
1997-2006	10,318
2007-2016	11,510
2017-2022	6,140
Total	46,945

資料：カナダ政府移民、難民、市民省

2. 新移住者

1967年から2022年までに、合計46,945人の日本人移民がカナダへ移住しました。

表 3
2021年に日本に民族的または文化的起源を持つカナダ人の世代、性別、年齢層別統計

年齢層	全体(計)	全体(男)	全体(女)	第一世代(計)	第一世代(男)	第一世代(女)	第二世代(計)	第二世代(男)	第二世代(女)	第三世代以上(計)	第三世代以上(男)	第三世代以上(女)
全年齢	129,430	56,845	72,580	48,190	16,120	32,070	38,810	19,265	19,545	42,425	21,460	20,965
0～14歳	30,900	15,930	14,970	3,715	1,815	1,900	15,080	7,785	7,300	12,100	6,330	5,775
15～19歳	9,670	4,805	4,860	2,495	1,155	1,340	3,970	2,010	1,960	3,200	1,640	1,560
20～24歳	8,505	4,145	4,360	2,585	1,190	1,395	3,030	1,470	1,560	2,890	1,485	1,405
25～34歳	16,750	6,925	9,825	7,130	2,395	4,735	3,810	1,810	2,000	5,810	2,715	3,090
35～44歳	18,020	6,630	11,395	9,825	2,695	7,130	3,795	1,800	2,000	4,395	2,130	2,265
45～54歳	17,485	6,200	11,285	10,420	2,625	7,790	2,700	1,315	1,385	4,370	2,260	2,110
55～64歳	11,755	4,995	6,765	4,680	1,330	3,355	1,435	740	700	5,640	2,930	2,710
65～74歳	8,610	3,910	4,695	4,310	1,740	2,575	1,250	625	630	3,055	1,555	1,500
75歳以上	7,735	3,310	4,430	3,030	1,180	1,850	3,740	1,715	2,030	965	420	550

資料：カナダ統計局、2021年カナダ国勢調査、表 98-10-0338-01、世代区分別の民族的または文化的起源用語の補足：

第一世代 (First generation): カナダ国外で生まれた人 (移民一世や新移住者など)。

第二世代 (Second generation): カナダ国内で生まれ、少なくとも片方の親がカナダ国外生まれの人 (二世)。

第三世代以上 (Third generation or more): カナダ国内で生まれ、両親もカナダ国内生まれの人 (三世、四世など)。

表3は、2021年カナダ国勢調査データに基づく、2021年時点のカナダ在住日系人の世代別年齢分布を示しています。ここで国勢調査が定義する世代区分は以下の通りです：

- **第一世代：**カナダ国外で出生した者（外国生まれ）。世代区分は本人の出生地から導かれます。カナダ国外で出生した場合は第一世代に分類されます。
- **第二世代：**カナダで生まれ、少なくとも片方の親がカナダ国外で生まれた者。この分類は本人の出生地と両親の出生地を用いて決定されます。
- **第三世代以降：**カナダで生まれ、両親もカナダで生まれた者。このカテゴリーは国勢調査製品では「第三世代以降」と表記され、親と本人の出生地に基づく同じ算出方法から生成されます。

2021年時点で、単一の日本系民族・文化的背景を持つ、あるいは複数の民族・文化的背景の一つとして日本系を持つカナダ人は129,430人いました（本稿ではこれらを日系カナダ人と称します）。このうち48,190人が第一世代（一世、新移住者）であり、日系カナダ人の37.2%を占めました。

第二世代の55歳以上が第二次世界大戦前の移民の子孫であると仮定すると、第二世代のうち32,285人が新移住者の子孫にあたります。したがって、新移住者とその子孫は2012年に計80,575人となり、2021年の日系カナダ人総数の62.2%を占めました。新移住者とその子孫は現在、日系カナダ人コミュニティの主要構成要素です。

新移住者のもう一つの主要な人口統計的特徴は、女性が圧倒的に多いことです。第一世代（新移住者）では女性が66.5%を占めました。

表4
2021年に日本に民族的または文化的起源を持つ人カナダ人の世代、

1. 人数（実数）

世代区分	男女計	男	女
全体	129,430	56,845	72,580
第一世代	48,190	16,120	32,070
第二世代	38,810	19,265	19,545
第三世代以上	42,425	21,460	20,965

2. 世代区分および性別による構成比（%）

世代区分	男女計（%）	男（%）	女（%）
全体	100	43.9	56.1
第一世代	100	33.5	66.5
第二世代	100	49.6	50.4
第三世代以上	100	50.6	49.4

資料：カナダ統計局、2021年カナダ国勢調査、表 98-10-0338-01

表5は2021年時点における日本人移民の性別・移民時期別人数を示しています。1980年以前にカナダへ移住した日本人移民は4,925人でした。このうちごく一部が第二次世界大戦前の移民（1941年生まれば2021年に80歳）であった可能性があります。したがって、29,930人の可視的少数派日本人移民はほぼ全員が日本からの新移住者でした。

表5
2021年における日本人（可視少数グループ）移民の移民時期および性別統計

パート1：1980年以前～2000年

移民時期	移民総数	1980年以前	1980年～1990年	1991年～2000年
男女計	29,930	4,925	2,225	5,360
男	8,200	2,140	795	1,275
女	21,730	2,785	1,430	4,080

パート2：2001年～2021年

移民時期	2001年～2010年	2011年～2015年	2016年～2017年	2018年～2021年
男女計	8,410	4,405	1,800	2,805
男	1,765	1,080	475	660
女	6,645	3,325	1,325	2,145

資料：カナダ統計局、2021年カナダ国勢調査、表 98-10-0325-01

表5および表6で使用された用語に関する注記は以下の通りです。

- 可視的少数派グループ**：雇用均等法で定義された、先住民以外で人種的に非白人または肌色が非白人である者です。これがカナダ統計局の国勢調査における可視的少数派の定義です。可視的少数派グループには南アジア系、中国系、黒人系、フィリピン系、アラブ系、ラテンアメリカ系、東南アジア、西アジア、韓国系、日本系を含みます。移民とは永住権を取得した外国生まれの人を指します。日系カナダ人の可視的少数派グループの人数は、日系カナダ人全体の人数より少ないです。例えば2021年では、可視的少数派グループに属する日系カナダ人の数は98,895人であったのに対し、日系カナダ人の数は129,430人でした。これは、一部の日系カナダ人が、国勢調査の回答で、自らを可視的少数派の構成員とは認識していないためです。

第二次世界大戦後の時期において、新たな日本人移民の主要なグループは女性でした。2021年には、新たな日本人移民の73%が女性でした。

表 6
2021年における日本人（可視少数派）移民の移民時期および性別構成比（％）

パート1：1980年以前～2000年

移民時期	移民全体	1980年以前	1980年～1990年	1991年～2000年
男女計	100	100	100	100
男	27	43	36	24
女	73	57	64	76

パート2：2001年～2021年

移民時期	2001年～2010年	2011年～2015年	2016年～2017年	2018年～2021年
男女計	100	100	100	100
男	21	25	26	24
女	79	75	74	76

資料：カナダ統計局、2021年カナダ国勢調査、表 98-10-0325-01

表7は2021年の移民時期別・受け入れカテゴリー別日本人移民数を示しています。受け入れカテゴリーは以下の4つです：

- **経済移民**：労働市場の需要を満たす能力、事業の所有・経営・設立能力、多額の投資、自営業の創出、あるいは特定の州・準州の労働市場ニーズへの対応能力を通じてカナダ経済に貢献できると認められた移民が含まれます。永住権申請時に、主申請者として指定された移民の他に、副次的な申請者として、配偶者、内縁の配偶者、扶養家族が含まれることがあります。
- **家族によるスポンサー付き移民**：カナダ市民または永住権保持者によってスポンサーされ、配偶者、パートナー、親、祖父母、子、その他の親族としての関係に基づき永住権を付与された移民が含まれます。「家族クラス」または「家族再統合」という用語が、このカテゴリーを指すために使用されることがあります。
- **難民**：母国への帰還に対する十分な根拠のある恐怖を理由に、永住権を認められた移民が含まれます。このカテゴリーには、人種、宗教、国籍、特定の社会的集団への所属、または政治的意見（ジュネーブ条約難民）を理由に、迫害される十分な根拠のある恐怖を抱いていた者、および内戦や武力紛争によって深刻かつ個人的に影響を受けた者、あるいは大規模な人権侵害を受けた者が含まれます。一部の難民は、自身及び家族の難民保護を申請した時点でカナダに滞在していました。また国外にいた者は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、その他の指定紹介機関、または民間スポンサーによってカナダへの再定住が紹介されました。

- **その他の移民：**経済移民、家族によるスポンサー移民、難民の 카테고リーに該当しないプログラムに基づき永住権を付与された移民が含まれます。

経済移民カテゴリーでは、経済的理由に基づき主申請者を選定します。同伴家族（配偶者／事実婚パートナーおよび扶養子女）は通常、同じ申請書に記載され、申請が承認されれば主申請者と共に永住権を付与されます。

副次的な申請者とは、経済移民の主申請者の永住権申請書に配偶者、内縁の配偶者、または扶養家族（例えば、22歳未満の扶養子女、または22歳以上だが身体的・精神的状態により自立できない扶養子女）として記載された者を指します。

家族によるスポンサー移民

保証人は18歳以上で、カナダ市民、カナダ先住民法に基づく登録先住民、またはカナダ在住の永住者でなければなりません。保証人は、被保証者に対して所定期間（保証人カテゴリーにより期間が異なる）の経済的支援を提供し、被保証者が受給した特定の社会福祉給付金を返済する旨の誓約書に署名しなければなりません。一部カテゴリー（特に父母・祖父母）では、保証人は直近の課税年度における最低必要所得要件を満たすか、認められた連帯保証人／財務的誓約書を提出する必要があります。プログラム固有の所得基準と必要書類が適用されます。

- **スポンサー対象者（主なカテゴリー）**
 - 配偶者、内縁の配偶者、または事実婚の配偶者 — 婚姻関係にある配偶者、事実婚関係にあるパートナー、および内縁関係の定義を満たすパートナーを含みます。
 - 扶養子女 — 配偶者や内縁の配偶者がいない22歳未満の子、または身体的・精神的状態により経済的に依存している22歳以上の子。
 - 父母及び祖父母 — 父母・祖父母プログラム経由（受け入れ規則、保証人誓約、所得要件が適用されます）。
 - 限定的なケース（例：保証人にカナダ国内に他の近親者がいない場合）では、特定のその他の親族も保証対象となり得ます。ただし、厳しい条件付きです。

カナダの移民ポイント制度は、年齢、学歴、語学力、職務経験などの要素に基づき申請者を評価します。主な2つのシステムは、連邦熟練労働者（FSW）の100点満点評価表と、エクスプレスエントリー総合評価システム（CRS）です。CRSは1,200点満点で候補者を評価します。このポイント

システムは経済移民の主申請者に適用されますが、家族によるスポンサー移民には適用されません。

表 7
2021年における日本人移民の移民時期および入国区分別統計

1. 男女計 (Men and Women)

入国区分および申請者タイプ	移民時期計	1980～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2021	(2011-2015)	(2016-2021)
入国区分 合計	25,830	2,270	5,715	8,860	8,985	4,535	4,445
経済移民	11,960	1,325	2,795	3,580	4,255	2,310	1,945
うち主申請者	6,455	585	1,530	1,825	2,520	1,290	1,230
うち副申請者	5,505	745	1,265	1,760	1,735	1,025	720
家族移民(呼び寄せ)	13,410	870	2,840	5,150	4,555	2,150	2,405
難民	205	25	45	70	75	15	55
その他の移民	250	50	30	65	100	60	40

2. 男性 (Men)

入国区分および申請者タイプ	移民時期計	1980～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2021	(2011-2015)	(2016-2021)
入国区分 合計	6,435	795	1,450	2,005	2,185	1,150	1,035
経済移民	4,745	635	1,095	1,415	1,595	890	715
うち主申請者	3,030	460	720	805	1,045	540	505
うち副申請者	1,715	175	375	615	555	350	205
家族移民(呼び寄せ)	1,560	140	335	545	540	245	305
難民	75	10	15	30	15	0	10
その他の移民	60	0	10	20	25	15	0

3. 女性 (Women)

入国区分および申請者タイプ	移民時期計	1980～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2021	(2011-2015)	(2016-2021)
入国区分 合計	19,390	1,475	4,265	6,850	6,800	3,390	3,415
経済移民	7,210	690	1,700	2,165	2,660	1,425	1,235
うち主申請者	3,425	125	810	1,020	1,475	750	720
うち副申請者	3,785	570	890	1,145	1,185	670	515
家族移民(呼び寄せ)	11,850	725	2,510	4,605	4,015	1,910	2,105
難民	135	10	25	35	60	15	45
その他の移民	195	45	25	45	75	40	35

資料：カナダ統計局、2021年カナダ国勢調査、表 98-10-0317-01（入国区分および出生地別の移民時期）

表 8 は表 7 のデータのパーセント分布を示しています。表 7 と表 8 から得られる主な知見は以下の通りです：

- 2021年時点で、1980年から2021年の間にカナダへ移住した日本生まれの移民は、25,830名おりました。
- この期間中、経済移民は46%、家族によるスポンサー移民は52%、難民は1%、その他の移民は1%でした。ただし、このパーセント分布は男女で顕著な差異を示しました。
- 男性では経済移民が74%、家族による移民が24%でした。
- 女性では経済移民が37%、家族による移民が61%でした。
- こうした日本人移民のパターンは1991年以降安定しています。

表 8
2021年における日本人移民の移民時期および入国区分別構成比（％）

1. 男女計 (Men and Women)

入国区分および申請者タイプ	移民時期計	1980～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2021	(2011-2015)	(2016-2021)
経済移民 (計)	46	58	49	40	47	51	44
うち主申請者	25	26	27	21	28	28	28
うち副申請者	21	33	22	20	19	23	16
家族移民 (スポンサー付)	52	38	50	58	51	47	54
難民	1	1	1	1	1	0	1
その他の移民	1	2	1	1	1	1	1
合計	100	100	100	100	100	100	100

2. 男性 (Men)

入国区分および申請者タイプ	移民時期計	1980～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2021	(2011-2015)	(2016-2021)
経済移民 (計)	74	80	76	71	73	77	69
うち主申請者	47	58	50	40	48	47	49
うち副申請者	27	22	26	31	25	30	20
家族移民 (スポンサー付)	24	18	23	27	25	21	29
難民	1	1	1	1	1	0	1
その他の移民	1	0	1	1	1	1	0
合計	100	100	100	100	100	100	100

3. 女性 (Women)

入国区分および申請者タイプ	移民時期計	1980～1990	1991～2000	2001～2010	2011～2021	(2011-2015)	(2016-2021)
経済移民 (計)	37	47	40	32	39	42	36
うち主申請者	18	8	19	15	22	22	21
うち副申請者	20	39	21	17	17	20	15
家族移民 (スポンサー付)	61	49	59	67	59	56	62
難民	1	1	1	1	1	0	1
その他の移民	1	3	1	1	1	1	1
合計	100	100	100	100	100	100	100

資料：カナダ統計局、2021年カナダ国勢調査、表 98-10-0317-01

3. 教育

表 9
15歳以上の可視日系カナダ人の学歴、2021年

学歴区分	全世代・男女計	全世代・男	全世代・女	第一世代・男女計	第一世代・男	第一世代・女	カナダ全体・男女計	カナダ全体・男	カナダ全体・女
最終学歴 合計	100	100	100	100	100	100	100	100	100
学位・修了証書なし	8.4	10.7	6.8	5.2	7.9	4	16.7	18	15.4
高校卒業資格または同等	25.1	27.1	23.7	21.7	24.4	20.6	27.5	27.5	27.5
高等教育（ポストセカンダリー）修了証書・学位 計	66.6	62.2	69.5	73	67.7	75.4	55.9	54.5	57.1
徒弟制度・職業訓練修了証書または免状	4.6	6.8	3.2	4.1	5.2	3.6	10.3	14.6	6.1
うち非徒弟制度の職業訓練	2.2	2.4	2.1	2.4	2.6	2.3	5.6	6.5	4.7
うち徒弟制度の免状	2.4	4.4	1.1	1.7	2.7	1.3	4.7	8.1	1.4
カレッジ、CEGEP、その他非大学機関の修了証書	18.9	14.8	21.8	21.5	12.3	25.4	20.4	17.5	23.2
学士号未満の大学修了証書	3.8	2.9	4.4	5.8	5.4	6	2.6	2.1	3.1
学士号以上 計	39.2	37.8	40.2	41.7	44.7	40.4	22.6	20.4	24.8
学士号	28.4	26.1	30	30.5	29.3	31	15	13.2	16.8
学士号を超える大学修了証書	2	1.8	2.2	2.1	2.2	2.1	1.6	1.4	1.8
医学・歯学・獣医学・検眼学の学位	0.9	1.2	0.8	0.7	0.9	0.6	0.5	0.6	0.5
修士号	6.2	6.3	6	6.1	8	5.3	4.7	4.3	5
博士号	1.7	2.3	1.2	2.3	4.4	1.4	0.8	0.9	0.7

資料：カナダ国勢調査2021年、表98-10-0429-01

表 9 は、2021 年時点で日系カナダ人の教育水準がカナダ人全体よりも高いことを示しています：

- 日系カナダ人の 66.6%が高等教育修了証明書またはディプロマを保持していたのに対し、カナダ人全体の 55.9%がこれらを保持していました。

- 日系カナダ人の 39.2%が学士号以上の学位を保持していたのに対し、カナダ人全体の 22.6%がこれらを保持していました。

表 9 はまた、日系カナダ人の世代間における教育達成度の差異を示しています。

- 学士号以上の学位を持つ男性のパーセントは、第一世代（新規日系移民）で 44.7%、第二世代（主に新移住者の子孫）で 31.3%、第三世代以上（主に戦前移民の子孫である三世以上）で 36.1%でした。これらのパーセントは、新移住者が子供や戦前移民の子孫よりも教育水準が高かったことを示唆しているように見えますが、実際にはそうではありません。
- なぜなら、表 9 は 15 歳以上の日系カナダ人の学歴を示しています。15～19 歳の日系カナダ人のパーセントは同じ表に示されています。第一世代では低く（7.7%）、第二世代では非常に高く（38.9%）、第三世代以上では高かったです（28.5%）。日本でもカナダでも、通常 18 歳で高校を卒業し、22 歳で大学を卒業します。15～19 歳の年齢層には、高校や大学に在籍しているがまだ卒業していない者も含まれていました。したがって、第二世代と第三世代以上では、高等教育修了証明書や学士号の取得者のパーセントが第一世代よりも低く表示されています。

4. 所得

雇用所得には、有償雇用から受け取る賃金、給与、手数料のすべての所得、および農業または非農業の非法人事業および専門職の実務から得られる純自営業所得が含まれます。2021 年国勢調査における所得データの基準期間は 2020 暦年です。

表 10 は、2020 年の可視的少数派日系カナダ人日本人、および非可視的少数派カナダ人男性（「白人」と表記）の平均雇用所得を、移民ステータスと学歴別に示したものです。主な結果は次の通りです：

- 2020 年の日系カナダ人の平均雇用所得は 51,450 ドルで、非可視的少数派カナダ人（52,550 ドル）を下回りました。詳しくは、日本人カナダ人男性の平均雇用所得（65,800 ドル）は非可視的少数派カナダ人男性（60,900 ドル）を上回った一方、日本人カナダ人女性の平均雇用所得（41,080 ドル）は非可視的少数派カナダ人女性（43,440 ドル）を下回りました。
- 日系カナダ人の中で、移民の平均雇用所得は非移民の日系カナダ人よりも低かったです。特に、高等教育修了資格を持つ新移住者女性の平均雇用所得（36,720 ドル）は、同資格を持つカナダ生まれの日系カナダ人女性（59,800 ドル）より大幅に低かったです。

表9の続き

学歴区分	第二世代・男女計	第二世代・男	第二世代・女	第三世代以上・男女計	第三世代以上・男	第三世代以上・女
最終学歴合計	100	100	100	100	100	100
学位・修了証書なし	14.3	15.6	13.2	8.8	9.7	7.8
高校卒業資格または同等	29.6	29.4	29.7	26.9	28	25.7
高等教育（ポストセカンダリー）修了証書・学位計	56.1	54.9	57.1	64.4	62.3	66.4
徒弟制度・職業訓練修了証書または免状	5	7.1	3.1	5.1	7.9	2.3
うち非徒弟制度の職業訓練	2.1	2.4	1.9	1.9	2.1	1.7
うち徒弟制度の免状	3	4.7	1.2	3.2	5.7	0.6
カレッジ、CEGEP、その他非大学機関の修了証書	15.6	14.8	16.3	17.6	17	18.1
学士号未満の大学修了証書	1.9	1.9	2.1	2.1	1.3	2.9
学士号以上計	33.5	31.3	35.6	39.6	36.1	43.2
学士号	24.5	22.9	26.1	28.1	25.6	30.6
学士号を超える大学修了証書	1.6	1.5	1.7	2.1	1.6	2.7
医学・歯学・獣医学・検眼学の学位	0.9	1	0.8	1.4	1.7	1.1
修士号	5.4	4.8	5.9	6.8	5.9	7.7
博士号	1	1	1.1	1.2	1.4	1.1
15歳～19歳の割合（注）	38.9	40.4	37.3	28.5	29.5	27.5

表10
2020年における可視少数派日系カナダ人と非可視少数派カナダ人の移民ステータス、性別、および学歴別平均雇用所得

移民の状態	カナダ全体		カナダ生まれのカナダ人		外国生まれの新移民	
	日系カナダ人全体	白人系カナダ人全体	カナダ生まれの日系人	カナダ生まれの白人系カナダ人	外国生まれの日本人新移民	外国生まれの白人系新移民
1. 男女計						
学歴区分						
学歴計	51,450	52,550	56,650	52,050	41,080	57,250
学位・修了証書なし	17,760	27,760	17,460	27,400	18,400	31,800
高校卒業資格または同等	32,640	37,800	33,040	37,720	29,760	38,960
高等教育（ポストセカンダリー）修了証書・学位	59,450	63,200	70,100	62,950	43,760	65,600
学士号未満の高等教育修了証書・ディプロマ	45,240	50,840	55,250	51,200	33,920	47,400
学士号以上	68,700	80,300	78,600	80,600	51,550	79,800
2. 男性						
学歴区分						
学歴計	65,800	60,900	63,850	60,200	58,000	67,400
学位・修了証書なし	21,140	32,760	20,520	32,360	22,400	37,200
高校卒業資格または同等	39,240	44,600	37,240	44,480	39,900	46,040
高等教育（ポストセカンダリー）修了証書・学位	80,000	74,900	80,900	74,600	63,800	77,800
学士号未満の高等教育修了証書・ディプロマ	62,500	60,500	64,500	61,100	49,440	54,950
学士号以上	91,000	98,600	92,400	99,300	71,700	97,300
3. 女性						
学歴区分						
学歴計	41,080	43,440	49,280	43,240	34,680	45,720
学位・修了証書なし	13,360	19,560	13,040	19,220	15,000	23,360
高校卒業資格または同等	26,440	29,680	28,120	29,600	24,700	31,240
高等教育（ポストセカンダリー）修了証書・学位	46,200	51,900	59,800	51,950	36,720	52,150
学士号未満の高等教育修了証書・ディプロマ	34,560	40,000	44,200	40,200	29,760	38,080
学士号以上	53,950	65,800	67,200	66,600	42,920	61,950

注記：

移民ステータス（Immigrant status）：その人物が非移民、移民、または非永住居住者のいずれであるかを指します。

非移民（Non-immigrants）：出生によりカナダ市民権を持つ者を含みます。

非可視少数派（Not a visible minority）：

可視少数派グループ（有色人種マイノリティ）に属さないすべてのカナダ人を含みます（※一般的に白人系カナダ人を指します）。白人系カナダ人。

資料：カナダ統計局、表98-10-0439-01

5. 言語

第一世代の日系カナダ人（新移民）では、88%が日本語を母語としていました。興味深いことに、13%が英語を母語としており、また1%がフランス語と記載しています。彼らは日本で生まれた日本人か、あるいは家庭で英語やフランス語を話す国で生まれた日本人かもしれません。この表

は、第二世代（新移住者の子供たち）や第三世代以降（新移住者の孫たちや戦前移民の第三世代以降）において、日本語を母語として維持することが困難であったことを示唆しています。日系カナダ人コミュニティにおける日本語については、第 III 章で歴史的・社会的に検討します。

表11
日系カナダ人の世代別の母語、2021年

世代区分	英語	フランス語	日本語
全世代	56	2	47
第一世代	13	1	88
第二世代	71	4	37
第三世代以上	97	2	2

資料：カナダ国勢調査、表 98-10-0325

6. カナダ移民の動機

初期移民期（1800 年代後半～1930 年代）の日本人移民がカナダへ移住した動機は以下の通りです：

- 男性（一世）
 - **経済的機会**：漁業、林業、鉱業、鉄道建設の仕事を求めて日本の農村部から多くが渡りました。
 - **日本の貧困や硬直した階級構造からの脱出**：特に相続の見込みが限られた次男たちが該当します。
 - **連鎖移民**：男性は既にブリティッシュコロンビア州に定住した友人や親族の後を追うことが多かったです。
- 女性
 - **家族再統合**：妻は既にカナダにいる夫のもとへ合流しました。見合い結婚によるケースが多かったです。
 - **写真花嫁**：日本で代理結婚した女性が、一度も会ったことのない夫のもとへカナダへ渡りました。
 - **家庭内役割**：女性は家業を支え、子育てを行い、地域社会の基盤構築に貢献しました。

現代の日本人移民（1980 年代以降）のカナダ移民の動機は以下の通りです：

- **男性**

- **専門職の向上**：技術者、研究者、起業家は国際経験とキャリア成長を求めます。
- **文化的関心**：カナダの多文化主義と二言語主義に惹かれる者もいます。
- **ビジネス上の繋がり**：カナダと日本の貿易関係が企業転勤や投資を促します。

- **女性**

- **教育と自立**：多くの女性が学位取得、語学学習、海外での自己成長を追求します。
- **結婚移民**：カナダ人パートナーとの結婚後に移住する者もいます。
- **生活様式と安全性**：安全、男女平等、自然環境への評価が高いカナダは、バランスの取れた生活を望む女性に魅力的です。

7. エドモントンにおける新移住者の調査

2016年、エドモントン日系人協会は歴史プロジェクトを完了し、エドモントン地域の日系カナダ人の歴史に関する調査報告書を出版しました。このプロジェクトには2013年に行われた新移住者への個人史に関するアンケートが含まれ、カナダ移住の理由や現在の職業について質問しました。

合計77名の新移住者がアンケートに答え、内訳は男性20名、女性57名でした。

2013年時点で、経済移民の男性は全員就労しており、家族呼び寄せ移民の男性のうち2人も就労していました。2013年に無職の主婦だった女性2名は、経済移民の男性の妻となりました。家族保証移民の女性40名のうち、2013年時点で18名が就労し、22名が家事従事者でした。就労女性のうち8名は日本語教育に携わっていました。大学で教える日本語教育の専門家もいれば、個人指導や地域団体で教える者もいました。地域団体での日本語教育は、家族スポンサー移民としてカナダに来た日本人女性移民が職を得るための一般的な方法でした。

8. 地理的分布

日系カナダ人の州別の分布パーセントを、カナダ人の州別分布パーセントと比べると、日系カナダ人がカナダ人全体と比べて、どの州に集中しているかわかります。

- ケベック州における日系カナダ人のパーセント（5.8%）は、2021年の同州におけるカナダ人全体のパーセント（22.9%）より大幅に低かったです。

- オンタリオ州における日系カナダ人のパーセント（32.6%）は、2021年時点のカナダ人パーセント（38.6%）よりわずかに低かったです。
- 最も顕著な差異はブリティッシュ・コロンビア州に見られました。同州のカナダ人パーセントは13.5%であったのに対し、日系カナダ人のパーセントは42.2%でした。第二次世界大戦前、日系カナダ人の90%以上がブリティッシュ・コロンビア州に居住していました。第二次世界大戦後、カナダ政府は日系カナダ人をロッキー山脈以東に分散させ、1949年4月1日までブリティッシュ・コロンビア州への帰還を禁じました。2021年までに、日系カナダ人の42.2%がブリティッシュコロンビア州に住んでいました。戦後、ロッキーの東へ強制的に分散された日系カナダ人は、その約50パーセントがブリティッシュコロンビア州に戻ってきました。

表 15 は、2021 年における日系カナダ人第一世代（新移住者）の地理的分布を示しています：

- 新移住者の分布は、全体として日系カナダ人の分布と類似していました。
- 新移住者のパーセントが最も高かったのはブリティッシュコロンビア州（44.7%）で、次いでオンタリオ州（31.7%）、アルバータ州（10.7%）、ケベック州（7.9%）でした。

表15
日系カナダ人の州別、世代別分布、2021年

地域	全世代	第一世代	第二世代	第三世代以上	第一世代の割合 (%)
カナダ全体	129,430	48,190	38,810	42,425	37.2
ニューファンドランド・ラブラドール州	150	80	25	45	53.3
プリンスエドワードアイランド州	250	165	45	35	66
ノバスコシア州	1,125	585	310	230	52
ニューブランズウィック州	445	170	105	170	38.2
ケベック州	7,465	3,810	2,405	1,245	51
オンタリオ州	42,250	15,260	13,215	13,775	36.1
マニトバ州	2,770	715	665	1,385	25.8
サスカチュワン州	1,295	490	330	475	37.8
アルバータ州	18,605	5,135	5,090	8,370	27.6
ブリティッシュコロンビア州	54,640	21,560	16,500	16,580	39.5
ユーコン準州	275	130	50	95	47.3
ノースウエスト準州	150	75	50	20	50
ヌナブト準州	15	10	10	10	66.7

	日系カナダ人 (%)	日系人第一位世代 (%)	カナダ人 (%)
カナダ全体	100.0	100.0	100.0
ニューファンドランド・ラブラドール州	0.1	0.2	1.4
プリンスエドワードアイランド州	0.2	0.3	0.4
ノバスコシア州	0.9	1.2	2.6
ニューブランズウィック州	0.3	0.4	2.1
ケベック州	5.8	7.9	22.9
オンタリオ州	32.6	31.7	38.6
マニトバ州	2.1	1.5	3.6
サスカチュワン州	1.0	1.0	3.0
アルバータ州	14.4	10.7	11.5
ブリティッシュコロンビア州	42.2	44.7	13.5
ユーコン準州	0.2	0.3	0.1
ノースウエスト準州	0.1	0.2	0.1
ヌナブト準州	0.0	0.0	0.1

資料：2021カナダ国勢調査、Table 98-10-0338-01

表 16 は 2021 年における日系カナダ人の世代別・地域別分布を示しています：

- 海辺諸州（ニューファンドランド、ノバスコシア、プリンスエドワード島、ニューブランズウィック）では、ハリファックス（870 人）のみが日系カナダ人 300 人以上を抱える都市でした。このうち 465 人が新移住者です。
- ケベック州では、7,645 人の日系カナダ人のうち、5,940 人がモントリオールに住んでおり、そのうち 3,180 人（53.5%）が新移住者でした。
- オンタリオ州では、日系カナダ人は大小さまざまな都市や町に住んでいました。トロントが日系カナダ人の数が最も多く（27,255 人）、続いてオタワ（3,725 人）、ハミルトン（2,330 人）、キッチナー・ケンブリッジ・ウォータールー（1,520 人）、ロンドン（1,125 人）、セントキャサリンズ・ナイアガラ（995 人）でした。
- マニトバ州では、日系カナダ人 2,770 人のうち、2,370 人がウィニペグに住んでいました。
- サスカチュワン州には、1,295 人の日系カナダ人が住んでいました。彼らはサスカトーン（525 人）とレジナイナ（380 人）に分かれて住んでいました。
- アルバータ州では、日系カナダ人の総数は 18,605 人でした。上位 3 都市は、カルガリー（8,540 人）、エドモントン（4,255 人）、レスブリッジ（1,995 人）でした。カルガリーでは 32.0%、エドモントンでは 29.7%、レスブリッジでは 12.8%が新移住者でした。バンフ国立公園のすぐ外にあるリゾート地キャンモアでは、320 人の日系カナダ人のうち 170 人が第一世代（新移住者とワーキングホリデー参加者）でした。
- ブリティッシュコロンビア州では、日系カナダ人は州全体に散在していました。バンクーバーが最多（38,950 人）で、次いでビクトリア（3,805 人）、ケロウナ（1,955 人）、カムループス（1,120 人）、ナナイモ（885 人）、アボッツフォード（875 人）が続きました。
- ホワイトホース（ユーコン準州）では、220 人の日系カナダ人のうち、125 人が新移住者でした。
- イエローヘッド（ノースウェスト準州）では、日系カナダ人 110 人のうち 55 人が新移住者でした。
- 2021 年、新移住者は多くの小都市や町に住んでいました。その一部では、新移住者が日系カナダ人の中で多数派でした。国勢調査データからは、新移住者が、そうした小都市や町を選んだ理由（特別な就職機会、カナダ人配偶者の故郷など）は明らかになりません。

Table 16
Distributon of Japanese Canadians by City and Generation, 2021

	Total - Generation status	First generation	Second generation	Third generation or more	% of First generation
Canada	129,430	48,190	38,810	42,425	37.2
Newfoundland and Labrador	150	80	25	45	53.3
Corner Brook (CA), N.L.	0	0	0	0	0.0
Gander (CA), N.L.	0	0	0	0	0.0
Grand Falls-Windsor (CA), N.L.	0	0	0	0	0.0
St. John's (CMA), N.L.	90	65	10	15	72.2
Prince Edward Island	250	165	45	35	66.0
Charlottetown (CA), P.E.I.	175	100	45	30	57.1
Summerside (CA), P.E.I.	15	15	0	0	100.0
Nova Scotia	1,125	585	310	230	52.0
Cape Breton (CA), N.S.	25	10	20	0	40.0
Halifax (CMA), N.S.	870	465	250	155	53.4
Kentville (CA), N.S.	30	30	0	0	100.0
New Glasgow (CA), N.S.	10	0	0	10	0.0
Truro (CA), N.S.	25	15	0	0	60.0

New Brunswick	445	170	105	170	38.2
Bathurst (CA), N.B.	0	0	0	0	0.0
Campbellton (CA), N.B./Que.	0	0	0	0	0.0
Edmundston (CA), N.B.	0	0	0	0	0.0
Fredericton (CMA), N.B.	95	45	15	30	47.4
Miramichi (CA), N.B.	0	0	0	0	0.0
Moncton (CMA), N.B.	135	55	40	45	40.7
Saint John (CMA), N.B.	70	35	10	25	50.0

Quebec	7,465	3,810	2,405	1,245	51.0
Alma (CA), Que.	25	0	10	0	0.0
Amos (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Baie-Comeau (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Cowansville (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Dolbeau-Mistassini (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Drummondville (CMA), Que.	0	0	0	0	0.0
Granby (CA), Que.	20	10	10	0	50.0
Joliette (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Lachute (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Matane (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Montréal (CMA), Que.	5,940	3,180	1,840	920	53.5
Québec (CMA), Que.	510	265	170	80	52.0
Rimouski (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Rivière-du-Loup (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Rouyn-Noranda (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Saguenay (CMA), Que.	25	10	10	15	40.0
Saint-Georges (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Saint-Hyacinthe (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Sainte-Agathe-des-Monts (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Sainte-Marie (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Salaberry-de-Valleyfield (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Sept-Îles (CA), Que.	10	10	0	0	100.0
Shawinigan (CA), Que.	10	10	10	0	100.0
Sherbrooke (CMA), Que.	65	20	20	25	30.8
Sorel-Tracy (CA), Que.	15	10	10	0	66.7
Thetford Mines (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Trois-Rivières (CMA), Que.	45	15	10	25	33.3
Val-d'Or (CA), Que.	0	0	0	0	0.0
Victoriaville (CA), Que.	30	10	20	0	33.3

Ontario	42,250	15,260	13,215	13,775	36.1
Barrie (CMA), Ont.	345	90	85	165	26.1
Belleville - Quinte West (CMA), Ont.	140	25	40	80	17.9
Brantford (CMA), Ont.	140	45	20	75	32.1
Brockville (CA), Ont.	35	25	0	10	71.4
Centre Wellington (CA), Ont.	55	0	25	30	0.0
Chatham-Kent (CA), Ont.	165	10	30	115	6.1
Cobourg (CA), Ont.	45	20	10	15	44.4
Collingwood (CA), Ont.	70	25	10	30	35.7
Cornwall (CA), Ont.	30	15	0	10	50.0
Elliot Lake (CA), Ont.	0	0	0	0	0.0
Essa (CA), Ont.	30	0	0	25	0.0
Greater Sudbury (CMA), Ont.	105	45	40	20	42.9
Guelph (CMA), Ont.	345	115	90	140	33.3
Hamilton (CMA), Ont.	2,330	595	625	1,110	25.5
Hawkesbury (CA), Ont./Que.	0	0	0	0	0.0
Ingersoll (CA), Ont.	25	0	10	15	0.0
Kawartha Lakes (CA), Ont.	25	0	0	20	0.0
Kenora (CA), Ont.	35	0	0	30	0.0
Kingston (CMA), Ont.	375	110	125	135	29.3
Kitchener - Cambridge - Waterloo (CMA), Ont.	1,520	605	395	520	39.8
London (CMA), Ont.	1,125	445	320	370	39.6
Midland (CA), Ont.	15	10	0	0	66.7
Norfolk (CA), Ont.	15	10	0	0	66.7
North Bay (CA), Ont.	65	20	25	25	30.8
Orillia (CA), Ont.	45	0	15	30	0.0
Oshawa (CMA), Ont.	885	175	250	465	19.8
Ottawa - Gatineau (CMA), Ont./Que.	3,725	1,285	1,260	1,170	34.5
Owen Sound (CA), Ont.	75	15	45	10	20.0
Pembroke (CA), Ont.	0	0	0	0	0.0
Petawawa (CA), Ont.	40	10	30	0	25.0
Peterborough (CMA), Ont.	230	55	85	90	23.9
Port Hope (CA), Ont.	55	20	0	35	36.4
Sarnia (CA), Ont.	75	0	10	65	0.0
Sault Ste. Marie (CA), Ont.	60	10	10	40	16.7
St. Catharines - Niagara (CMA), Ont.	995	375	330	295	37.7
Stratford (CA), Ont.	45	35	0	10	77.8
Thunder Bay (CMA), Ont.	395	45	55	295	11.4
Tillsonburg (CA), Ont.	0	0	10	0	0.0
Timmins (CA), Ont.	40	10	15	15	25.0
Toronto (CMA), Ont.	27,255	10,780	8,920	7,550	39.6
Wasaga Beach (CA), Ont.	30	0	0	20	0.0
Windsor (CMA), Ont.	355	100	100	150	28.2
Woodstock (CA), Ont.	85	50	10	20	58.8

Manitoba	2,770	715	665	1,385	25.8
Brandon (CA), Man.	65	10	10	40	15.4
Portage la Prairie (CA), Man.	15	0	0	10	0.0
Steinbach (CA), Man.	30	0	10	20	0.0
Thompson (CA), Man.	0	0	0	0	0.0
Winkler (CA), Man.	10	0	0	0	0.0
Winnipeg (CMA), Man.	2,370	610	595	1,165	25.7
Saskatchewan	1,295	490	330	475	37.8
Estevan (CA), Sask.	15	0	0	15	0.0
Moose Jaw (CA), Sask.	30	10	20	0	33.3
North Battleford (CA), Sask.	0	0	0	0	0.0
Prince Albert (CA), Sask.	30	0	0	15	0.0
Regina (CMA), Sask.	380	150	130	100	39.5
Saskatoon (CMA), Sask.	525	200	125	205	38.1
Swift Current (CA), Sask.	20	0	0	20	0.0
Weyburn (CA), Sask.	20	10	10	0	50.0
Yorkton (CA), Sask.	20	15	0	10	75.0
Alberta	18,605	5,135	5,090	8,370	27.6
Brooks (CA), Alta.	85	0	10	75	0.0
Calgary (CMA), Alta.	8,540	2,730	2,600	3,210	32.0
Camrose (CA), Alta.	10	0	0	0	0.0
Canmore (CA), Alta.	320	170	120	35	53.1
Edmonton (CMA), Alta.	4,255	1,265	1,070	1,910	29.7
Grande Prairie (CA), Alta.	235	30	60	140	12.8
High River (CA), Alta.	40	10	10	20	25.0
Lacombe (CA), Alta.	45	0	0	40	0.0
Lethbridge (CMA), Alta.	1,995	255	495	1,240	12.8
Lloydminster (CA), Alta./Sask.	60	10	20	25	16.7
Medicine Hat (CA), Alta.	165	35	45	75	21.2
Okotoks (CA), Alta.	65	10	20	40	15.4
Red Deer (CMA), Alta.	325	55	75	200	16.9
Strathmore (CA), Alta.	70	20	15	30	28.6
Sylvan Lake (CA), Alta.	30	0	10	15	0.0
Wetaskiwin (CA), Alta.	35	0	0	25	0.0
Wood Buffalo (CA), Alta.	60	20	25	15	33.3

British Columbia	54,640	21,560	16,500	16,580	39.5
Abbotsford - Mission (CMA), B.C.	875	245	340	285	28.0
Campbell River (CA), B.C.	115	40	35	40	34.8
Chilliwack (CMA), B.C.	525	145	130	250	27.6
Courtenay (CA), B.C.	345	135	105	110	39.1
Cranbrook (CA), B.C.	70	15	25	30	21.4
Dawson Creek (CA), B.C.	0	0	0	0	0.0
Duncan (CA), B.C.	220	65	80	65	29.5
Fort St. John (CA), B.C.	115	10	35	70	8.7
Kamloops (CMA), B.C.	1,120	235	315	570	21.0
Kelowna (CMA), B.C.	1,955	390	550	1,020	19.9
Ladysmith (CA), B.C.	85	20	15	45	23.5
Nanaimo (CMA), B.C.	885	330	265	290	37.3
Nelson (CA), B.C.	190	65	40	85	34.2
Parksville (CA), B.C.	110	50	30	25	45.5
Penticton (CA), B.C.	275	35	50	180	12.7
Port Alberni (CA), B.C.	60	20	0	35	33.3
Powell River (CA), B.C.	100	30	20	45	30.0
Prince George (CA), B.C.	345	55	60	230	15.9
Prince Rupert (CA), B.C.	130	25	10	95	19.2
Quesnel (CA), B.C.	50	25	10	15	50.0
Salmon Arm (CA), B.C.	165	55	35	75	33.3
Squamish (CA), B.C.	280	110	90	80	39.3
Terrace (CA), B.C.	95	0	25	65	0.0
Trail (CA), B.C.	10	0	0	0	0.0
Vancouver (CMA), B.C.	38,950	16,610	11,960	10,375	42.6
Vernon (CA), B.C.	575	120	170	285	20.9
Victoria (CMA), B.C.	3,805	1,800	1,095	905	47.3
Williams Lake (CA), B.C.	120	20	30	70	16.7
Yukon	275	130	50	95	47.3
Whitehorse (CA), Y.T.	220	125	50	50	56.8
Northwest Territories	150	75	50	20	50.0
Yellowknife (CA), N.W.T.	110	55	45	10	50.0
Nunavut	15	10	10	10	66.7

Source: Table 98-10-0338-01

III. 新移住者と第二次世界大戦前の日本人移民の子孫との相互作用

1. アイデンティティの比較

A. 第二次世界大戦前の日本人移民の三世（第三世代）と四世（第四世代）の特徴

- **日本文化の希薄化**：多くの三世は、食文化や時折の儀式（新年、お盆など）を除けば、日本語や習慣にほとんど触れずに育ちました。
- **歴史的断絶**：第二次世界大戦中の強制収容と戦後の離散が、日系カナダ人に対して、カナダ文化への同化の圧力を増加し、同時に日本文化の伝統を自ら放棄、隠蔽することになりました。
- **アイデンティティの問い直し**：三世及びそれ以上の世代には、自らのルーツを積極的に探求し、旅行・語学学習・コミュニティ活動を通じて再接続を求める者もいます。
- **カナダ文化への深い統合**：三世及びそれ以降の世代は教育・職業・生活様式において、他のカナダ人と見分けがつかないことが多いです。
- **市民参加**：多くの三世及びそれ以上の世代がカナダ社会に積極的に貢献し、賠償運動や多文化主義の取り組みを主導する者もいます。
- 三世及びそれ以上の世代は、異文化間結婚率の高さから、いくつの異なる文化的遺産をどう統合するかを模索せざるを得ません。
- **ハイブリッドなアイデンティティ**：三世及びそれ以上の世代は、文化的にはカナダ人でありながら、歴史的・コミュニティに関しては、日系人としての自覚を持ち続ける場合があります。

B. 新移住者の特徴

- **強い文化的継続性**：多くの者が日本語の流暢さを保ち、伝統的な祝日を祝い、日本の家族や組織との繋がりを維持します。
- **トランスナショナルなアイデンティティ**：一部は地球市民と自認し、カナダでの職業・教育目標と日本の文化的ルーツを両立させています。
- **コミュニティ形成**：新移住者は、しばしば独自の社交圏を形成し、既存の日系カナダ人コミュニティとは分離する場合があります。

- **選択的統合：**多文化主義や男女平等といったカナダ的価値観を受け入れる一方、私生活では日本の規範を維持する傾向があります。
- **職業・教育重視：**キャリア、留学、結婚を主な移住動機とし、カナダの制度へ現実的な関与を示します。
- **言語障壁：**英語やフランス語の習熟度が低いと、特に高齢移民では、カナダ社会への統合に支障をきたします。

2. 相互関係

1967年以降の日本人移民と、第二次世界大戦前の日系カナダ人の子孫（三世以降）との関係は、文化的隔たりと、地域・カナダ全体のレベルでの、時折の共同活動によって特徴づけられます。異なる移民史、言語能力、コミュニティの優先事項、関与する個人の経験などが、共同活動の種類と規模に影響しています。

A. 歴史的・文化的差異

- **異なる移住背景：**戦前移民（一世と二世）は人種差別、強制収容、強制的な離散に直面しました。その子孫（三世と四世）はカナダ文化への同化と補償運動という環境の中で育ちました。
- 1967年以降の移民は、カナダの新しい能力主義移民制度のもとで、教育、仕事、結婚を目的に来加し、戦時中の迫害を経験していません。

B. 言語とアイデンティティ

- 三世以降の世代は一般的に英語を話し、日本語能力は限られています。
- 新移住者は、日本語や文化的慣習を維持する傾向があり、カナダ人とのコミュニケーションや文化的な環境に隔たりが生じます。
- 新移住者は、特に自身の英語力が低いと感じる場合、文化的・教育的・心理的要因が重なり、英語を話すことに臆病さや不安を感じる人が多いです。この傾向が日系カナダ人組織や活動への積極的参加を妨げています。

C. 接点

- 新移住者は、料理やポップカルチャーといった、現代日本文化を現地の日系カナダ人組織にもたらすことができます。彼らは三世や四世から、多文化社会での生き方を学べます。
- 1980～90年代の三世主導の補償運動は、新たな移民が学ぶべき歴史的故事を確立しました。これにより新移住者は、カナダ人としての視点から見た、日系カナダ人コミュニティの歴史的継承者であることを自覚しやすくなります。
- 新移住者は日系カナダ人の持つアイデンティティを「同化が進みすぎており、自らのルーツ文化にほとんど関心を持たない」と捉える可能性がある一方、三世・四世は、新移住者を「日系カナダ人の人権闘争の参加者ではなく、現在のカナダにおける地位が三世・四世の人権闘争に基づいていることを理解していない」と感じるかもしれません。
- 新移住者と三世・四世の社交圏やネットワークは、多様な日本語組織や非公式グループが存在する都市部では、しばしば分離したままです。特定の焦点を絞ったイベントでこれらの多様なグループをつなぐのは難しいです。
- 小都市、例えばエドモントンでは、新移住者、三世・四世、一般カナダ人が、同一組織（エドモントン日本文化協会）に属して、共同作業をしています。
- 異民族間結婚や、1967年以降の移民の第二世代の子どもたちは、新たなハイブリッドなアイデンティティを形成しています。これは新移住者よりも、三世や四世に近いものです。

3. 制度的枠組み

新移住者と三世・四世の相互利益のための、緊密な連携を促進できる日系カナダ人組織にはいくつかの種類があります。

A. 全カナダ日系人協会（NAJC）の会員団体

NAJCの会員である日系カナダ人団体は、カナダ主要都市に存在します。これらの団体は地域イベントやプログラムを主催しています。三世、四世、新移住者、そしてしばしば日本や日本文化に関心を持つカナダ人にも門戸を開いています。

B. エドモントン日系文化協会（EJCA）

エドモントン日本文化協会（EJCA）は日系カナダ人、新移住者、カナダ人、日本人を会員として受け入れ、通常数名のカナダ人も役員会に名を連ねています。2025年時点で、会員の25%が三世または四世、25%が新移住者、カナダ人が50%を占めています。EJCAは文化センターを、地元の地

域コミュニティーと共同運営しています。空手、盆栽、書道、シニア、生け花、カラオケ、太鼓、日本語会話など、日本文化に関心を持つグループが会員になっています。

新移住者は EJCA の多くのプログラムやイベントで活発に活動しています。特にバザーでの日本食の調理、料理教室、特別日本料理ディナー、高齢者会合の昼食会、夏祭り、エドモントン多民族祭などで活躍しています。EJCA は地元の中学校・高校向けに特別教育プログラムを提供し、生徒たちに日本の歴史と文化を直接紹介しています。「ジャパン・トゥデイ」では中学 2 年生社会科の生徒を EJCA センターに招き、半日セッションを実施します。講師が日本語と文化を教え、体験活動を提供し、空手を指導します。毎年、EJCA は約 30 校、2,500 名の生徒を受け入れています。

「Explore Japan」は、アルバータ州の高校で日本語を学ぶ生徒に、日本文化を実際に経験する機会を提供します。日本人コミュニティメンバーが支援する多様な活動を通じ、このプログラムはアルバータの若者の日本文化への理解を深め、日加間の友情と関心を促進します。このイベントはアルバータ州教育省の日本語カリキュラムで求められる学習を直接支援するため、アルバータ州高校で日本語プログラムを受講する生徒にとって貴重な経験となります。また、EJCA 会員への日本語クラスには、毎年 200 人以上が参加しています。

「ジャパン・トゥデイ」と「エクスプロア・ジャパン」の講師の大半は新移住者です。これらのプログラムは新移住者に日本語・日本文化を教える経験を積む機会を提供し、他の仕事に応募する際の履歴書に記載出来る経験を提供できます。

C. 全カナダ日系人協会 (NAJC)

NAJC は、第二次世界大戦前の日系移民の子孫と、新移住者の共同活動に関わる課題に取り組んできました。例えば 2017 年オタワでの年次総会では、EJCA が新移住者向け特別セッションを設けました。このセッションから導かれた主な論点は以下の通りです：

- **準備と言語：** 国際結婚の多くの女性は、健康・教育・人権に関するカナダの環境への準備が不足した状態で到着します。言語はこのグループの同化にとって依然として大きな障壁です。
- **孤立：** 一部の新移住者は、現地の日系カナダ人コミュニティから完全に独立して生活しています。特に国際結婚の女性は、自身の苦労を話し合うことをためらいがちで、信頼できる日本語を話す支援者を見つける機会が不足しています。

- **語学学校の役割：**地域の日本語学校は、国際結婚の母親たちにとって重要な交流の場となっています。しかし子供たちが学校に通わなくなると、こうした社会的つながりを失うことが多いです。
- **支援モデル：**ユダヤ人コミュニティなど他民族グループが新家族支援に用いる「バディシステム」を参考にすべきだと指摘されました。
- **提案された解決策：**新移住者が必要なサービスや情報へ導く「ワンストップ」情報サービスの設置が提案されました。
- **歴史的使命：**全カナダ日系人協会（NAJC）は、歴史的に戦前の日系カナダ人に焦点を当てており、新移住者に対する具体的な使命を欠いています。
- **情報格差：**NAJC は現在、新移住者の性質やニーズに関する十分な情報を有していません。この格差を解消するため、直接的な情報収集を積極的に行う必要があります。

D. NAJC の「新移住者委員会」

2021年、新移住者グループが、Zoom で新移住者の関心事項に関するオープンな議論を開始しました。2022年、このグループは NAJC 内に新移住者委員会を設置することを提案し、臨時委員会が承認されました。2023年5月、臨時委員会は常設委員会である日本人新移住者委員会（JNIC）に格上げされました。

JNIC の使命は以下の通りです：

- 日本人移民及び全てのカナダ人の人権と社会的公正を促進すること。
- 日本からの新移住者、日系コミュニティ、カナダ社会間の文化的対話と交流を国内外で促進すること。
- 日系カナダ人の歴史とカナダの広範な社会問題に関する教育機会を提供すること。
- カナダ全土の新移住者間の福祉、包摂、連帯を促進するネットワークを拡大すること。

JNIC は以下のような活動を行いました：

- 日本語による日系カナダ人歴史セミナーシリーズ
- JAMSNET（カナダ在住日本人医療ネットワーク）との共同制作による日本語版遠隔ケアハンドブック

- 日本語によるコミュニティ円卓会議
- 国際結婚の日系移民女性向け Zoom サークル

JNIC は日系カナダ人協会（NAJC）で初めての、新移住者の関心事に対応する委員会です。カナダ全土の会員を通じて、新移住者コミュニティの現状を把握し、NAJC に報告する役割を担います。

E. バンクーバーの隣組

隣組は 1974 年にバンクーバーで設立されました。日系カナダ人高齢者（主に第二次世界大戦前の一世）が直面する孤立と困難への、草の根的対応として始まり、今日ではボランティア主導の拠点として、日系カナダ人高齢者の文化的・社会的・健康支援を活発に行っています。

歴史的背景

- **起源（1973-1974 年）**：「隣組」は日本語で「近隣の集まり」を意味し、第二次世界大戦中の強制収容と 100 マイル排斥区域により数十年にわたり離散を余儀なくされた後、バンクーバーに戻った一世（第一世代日系カナダ人）を支援するために設立されました。
- **初期の使命**：創設者らは、バンクーバーのダウンタウン・イーストサイドで貧困と孤立の中で暮らす多くの日系カナダ人高齢者の生活改善を目指しました。
- **発展**：約 50 年にわたり、トナリグミは正式名称「日系コミュニティボランティア協会」として認知された非営利団体へと成長し、メトロバンクーバー全域の日系カナダ人コミュニティに幅広いサービスを提供しています。

主な活動

- **高齢者支援サービス**：隣組は高齢の日系カナダ人に対し、健康状態の確認、交流プログラム、医療制度の案内など、文化的に配慮した支援を提供します。
- **食料支援プログラム**：外出困難な高齢者向けの弁当作りと配達を中核サービスとし、栄養補給と交流の機会を創出しています。
- **文化イベントと地域連携**：日本文化の継承と世代間交流を促進するため、祭り、ワークショップ、語学プログラムを主催します。
- **テック・トゥ・ゴープログラム**：高齢者がデジタルツールに慣れ、社会との繋がりを保つための新たな取り組みです。

ボランティアの役割

隣組は約 200 名のボランティアによって支えられています。新移住者を含む多様な人々が様々な形で貢献しています：

- **キッチンボランティア**：弁当、饅頭、その他の伝統食の調理と包装を行います。
- **配達ボランティア**：孤立した高齢者に食事と交流を届けます。
- **事務ボランティア**：受付対応、ニュースレター発送、事務支援を行います。
- **イベントボランティア**：文化プログラム、祭り、特別行事の補助を行います。
- **テックメンター**：Tech to Go などのプログラムを通じ、高齢者のデジタルスキル習得を支援します。

隣組は世代・文化・コミュニティ間の重要な架け橋であり続け、戦前の日系移民の子孫と共に働くという、新たな新移住者にとってユニークな機会を提供しています。

F. トロント日系文化センター

トロント日系文化センター（JCCC）は 1963 年に設立され、日本国外で最大かつ最も活気ある日系文化機関の一つです。多様なプログラムと地域交流を通じ、日本文化の普及と日系カナダ人の遺産保存を推進しています。

歴史的概要

- **設立**：1963 年。第二次世界大戦中の強制収容と離散を経て、文化的アイデンティティの保存と地域コミュニティの再構築を目指す日系カナダ人により創設されました。
- **発展**：小規模な始まりから、JCCC は会員数 5,000 人以上、年間来館者数 21 万人、ボランティア 1,100 人を擁する主要な文化拠点へと成長しました。
- **使命**：教育、芸術、地域奉仕を通じて、日本文化と日系カナダ人の歴史に対する理解と評価を促進することです。

主な活動

JCCC は以下のような幅広いプログラムやイベントを提供しています：

- **文化プログラム**：伝統芸術（生け花、茶道、書道）、語学講座、現代日本文化ワークショップ。
- **武道**：柔道、剣道、空手、合気道などのクラス。全年齢・全レベル対象。
- **祭り・イベント**：年次行事として「桜ガラ」「夏祭り」「戦没者追悼記念日」式典など。
- **遺産・芸術**：日系カナダ人の歴史とアイデンティティを探る展示会、映画上映、講演会、アーカイブ事業。
- **コミュニティサービス**：高齢者、新移住者、若者への支援。健康増進プログラムや文化交流活動を含みます。

ボランティアの役割

ボランティアはJCCCの基盤であり、様々な分野で貢献しています：

- **イベントサポート**：祭りやガラ開催時の設営、運営、接客補助。
- **文化プログラムアシスタント**：芸術・語学クラスの講師や参加者を支援。
- **遺産・アーカイブ**：歴史展示のためのデジタル化、目録作成、調査補助。
- **受付・事務**：来訪者対応、問い合わせ対応、事務運営支援。
- **青少年・学生ボランティア**：多くの高校生や大学生が、社会奉仕活動の時間として、また文化体験を得るためにボランティア活動を行っています。

新しく日本から移住してきた人々は、日系カナダ人と共に活動するボランティアであり、現代の日本文化を日系カナダ人やカナダ人一般に伝える手助けができます。

G. バーナビーの日系国立博物館・文化センター

ブリティッシュコロンビア州バーナビーにある日系国立博物館・文化センター（NNMCC）は、日系カナダ人の歴史と遺産を保存・共有するため2000年に設立されました。教育、記憶の継承、異文化交流に捧げられた活気ある文化拠点、博物館、コミュニティスペースとして機能しています。

歴史的背景

- **設立**：2000年、日系カナダ人国立博物館と国立日系遺産センターの合併により設立されました。

- **目的：**日系カナダ人、特に一世と二世の遺産を称え、第二次世界大戦中の強制収容を含む彼らの貢献と苦難について一般に教育することです。
- **所在地：**ブリティッシュコロンビア州バーナビー。博物館、文化センター、コミュニティスペース、日本庭園を備えた専用施設です。

主な活動

NNMCC は歴史・文化・地域交流を融合した多様なプログラムを提供します：

- **博物館展示：**カラサワ・ギャラリーと廊下展示室で常設展・企画展を開催し、日系カナダ人の歴史・芸術・アイデンティティを探求します。
- **文化プログラム：**書道や茶道などの日本芸術、言語、季節の伝統に関するワークショップやクラス。
- **コミュニティイベント：**夏の祭り「日系祭り」、前夜祭のビアガーデン、ひな祭りやこどもの日などの文化行事。
- **教育普及活動：**学校向けプログラム、ガイドツアー、教育者・学生向けデジタル教材を提供しています。
- **アーカイブと研究：**日系カナダ人の生活に関する写真、口述歴史、文書などの充実したアーカイブを管理しています。

ボランティアの役割

ボランティアはNNMCCの運営とコミュニティ精神に不可欠です。主な役割は以下の通りです：

- **祭りボランティア：**日系祭やその他のイベントで設営、来客対応、文化ブースの運営を支援します。
- **博物館・アーカイブ：**目録作成、デジタル化、展示準備の補助を行います。
- **文化プログラム支援：**ワークショップや授業で講師や参加者を補助します。
- **受付・事務：**来館者対応、質問への回答、事務作業の補助。
- **青少年・地域交流：**高校生や大学生が奉仕活動時間や文化体験のためにボランティアとして参加することが多いです。

NNMCC は、新しく来日した日本人移民に日系カナダ人の歴史を学ぶ機会を提供し、日系カナダ人と共に現代の日本文化をカナダ人に伝える活動を行います。

H. 日本語学校

日本語学校には二種類あります：日本語補習学校と日本語継承学校です。

(1) 日本語補習学校

カナダにおける日本語補習学校は、海外在住日本人の子女が日本語能力と文化的継続性を維持することを目的とします。日本の教育課程に沿い週末に運営され、カナダに一時滞在する家族を対象とします。新移住者の子弟を受け入れる補習校もあります。

目的

- **教育の継続性**：子供たちが日本の国家教育システムに沿った学習を続け、帰国後の円滑な再統合を可能にします。
- **言語能力**：特に学術レベルでの日本語の読解・作文・会話能力の維持に重点を置きます。
- **文化の保存**：教室活動や季節行事を通じて、日本の習慣・価値観・社会規範を強化します。

主な活動

- **カリキュラムに基づく指導**：教科には日本語、算数、社会、理科が含まれ、日本の文部科学省が承認した教科書を用いて日本語で教えます。
- **文化行事**：日本の祝日（例：ひなまつり、運動会）や書道、折り紙などの伝統芸術の祝典。
- **保護者参加**：家族は学校の運営、資金調達、行事計画を支援し、強いコミュニティネットワークを育みます。

教師

- **有資格教育者**：日本の教員免許保持者や、日本語が流暢で指導経験のある者が多いです。
- **専門能力開発**：教師は海外子女教育財団などの団体が提供する研修やワークショップに参加します。

- **ボランティア支援**：一部の学校では、授業や事務運営を補助するため、保護者や地域住民のボランティアに依存しています。

生徒

- **日本人の子弟**：主に、仕事、留学、外交任務でカナダに滞在している家族の子どもたちです。
- **年齢層**：通常は幼稚園から中学校までですが、高校レベルの授業を提供する学校もあります。
- **言語背景**：ほとんどの生徒は家庭で日本語を話し、平日は地元のカナダの学校に通っています。

(2) 日本語継承教育学校

カナダの日本語継承教育学校は、日系の子どもたちの中で日本語と文化的アイデンティティを保存することを目的としています。週末や放課後のプログラムを提供し、バイリンガル育成、文化的リテラシー、コミュニティとのつながりに焦点を当てています。

目的

- **文化的継承**：これらの学校は日系カナダ人の子供たちが祖先の言語と伝統とのつながりを維持するのを助けます。
- **バイリンガル育成**：指導は会話の流暢さ、読み書き能力、英語やフランス語と並行して日本語を使う自信を育みます。
- **アイデンティティ形成**：プログラムは日本のルーツへの誇りを育み、世代間の理解を促します。
- **コミュニティ構築**：学校はしばしば日系カナダ人家族がつながり協力する拠点となります。この機能はカナダへの新規移住者にとって特に有益です。

主な活動

- **言語教育**：授業はひらがな、カタカナ、漢字、文法、読解、会話に焦点を当てます。教材は母語話者ではなく、継承学習者向けに調整されています。学校によっては日本の教科書を使

用するか、独自教材を用います。クラス編成は年齢ではなく、各生徒の言語能力に基づいて行われます。

- **文化教育**：生徒は日本のお祭り、習慣、芸術（折り紙、書道など）、歴史を学びます。
- **季節行事**：ひな祭り、こどもの日、七夕などの祝祭が一般的です。
- **家族参加**：保護者は学校の運営、ボランティア活動、文化行事によく参加します。

教師

- **バイリンガル教育者**：多くの教師は日本語と英語に堪能で、母語教育の経験を持ちます。
- **地域住民**：文化知識と指導力に優れた保護者やボランティアが教える場合もあります。
- **専門能力開発**：国際交流基金などの団体が母語教師向けの研修や交流の場を提供しています。

生徒

- **日本の新移住者の子孫である三世、四世、五世（第三世代から第五世代）の学習者。**
- **混血家庭の子ども**：異文化家庭で育ち、日本のルーツと繋がりたい子どもたち。
- **対象年齢**：主に就学前から中学生まで。ただし成人向けや青少年向けクラスを設ける学校もあります。

カナダ滞在期間が不確かな新移住者は、子どもを日本語補習学校に通わせる場合があります。日系カナダ人の数が少ない都市では、日本語補習学校は最終的に日本の学校制度に戻る児童と、カナダに残りカナダの学校制度に通う児童の両方を受け入れます。このハイブリッドシステムは、両グループの日本語能力レベルが異なるため維持が難しいです。成功しているハイブリッド校は、年齢ではなく生徒の日本語能力に基づいてクラス編成を行います。

IV. 結論

1. 新移住者が戦前移民の子孫から学べること

- 日系カナダ人アイデンティティの歴史的背景

新移住者は、戦前移民の子孫から、強制収容、財産没収、補償問題の解決の歴史をとおして、これらの出来事がいかに、日本文化の背景を持つ日系カナダ人が、忍耐と適応に根ざした独自の日系カナダ人アイデンティティを形成したかを学ぶことができます。

- 文化的統合の戦略

戦前移民の子孫は、しばしばハイブリッドなアイデンティティを体現しています。日本の価値観を保ちつつ、カナダ社会を生き抜くことです。彼らの体験は、文化的誇りと社会的適応のバランスを取ることのモデルです。

- コミュニティ組織化と権利擁護

多くの戦前移民の子孫は、組織の構築、権利の擁護、文化遺産の保存において深い経験を持ちます。新移住者は、三世・四世の築いたこれらのネットワークを通じて、カナダの制度を知り、自らの声を増幅する方法を学べます。

- 言語適応と世代間コミュニケーション

戦前移民の子孫が、日本語能力の喪失にもかかわらず、文化的絆を維持する方法を観察することは、移民が新しい国で、どのように言語環境に順応し、民族文化を保持し、新しい帰属意識を形成していくかという、長期的な力学を理解するのに役立ちます。

2. 戦後移民の子孫が新移住者から学べること

- 現代の日本文化と言語

新移住者は、日本からの新たな視点、文化慣行を、日系カナダ人社会にもたらし、現代において「日本人であること」の意味についての理解を豊かにします。

- 祖先のルーツとの再接続

多くの日系移民の子孫、特に三世や四世にとって、新移住者との関係は、世代を経て薄れていた日本語、習慣、価値観への関心を再燃させる可能性があります。

- アイデンティティに関するグローバルな視点

新移住者は、日本とカナダを往復する機会が多く、このような経験と、現代の日本社会についての情報を常に得ることによって形成されたインターナショナルな視点を持っています。これは、日系カ

ナダ人の持つ従来の自分たちの歴史的な観点を超えた、アイデンティティの形成に新しい視点を提供します。

- 文化的謙虚さと好奇心

新移住者との関わりは、戦前移民の子孫たちに、日本と日本文化に対する自らの思い込みを省みるきっかけを与え、日本人移民の多様性への理解を深めます。

3. 共同活動で築けるもの

- 多世代ストーリーテリング・プロジェクト

オーラル・ヒストリーワークショップ、バイリンガル出版物、デジタル・アーカイブは、強制収容・カナダ各地へ拡散、カナダ文化への適応の記憶を、時を超えて紡ぎ合わせます。

- 文化祭と食のイベント

伝統的で且つ現代的な日本料理、例えばアレンジを加えた餅つきや日本の郷土料理、を共有することは、楽しく実践的な日本文化の理解を育みます。

- 言語交換とメンターシップ

戦前移民の子孫たちは日本語を練習しながら、新移住者に英語やフランス語を教えることで、相互支援ネットワークを構築できます。

- 人権擁護の支援活動と市民参加

共に、反アジア人種差別、高齢者介護、移民の権利といった課題に取り組むことで、歴史的経験に基づいた視点から、現在緊急な社会問題に対する方法を見つけ出せます。